

# ふれあい通信



長南町長  
平野 貞夫

## 未曾有の大災害

台風15号および19号によって被災されました皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、町としては災害復旧に万全を期してまいりたいと考えております。

台風15号は、かつて経験したことのない暴風により町内全域に被害をもたらしました。停電の復旧も予想をはるかに超え、日常生活に支障ができました。防災拠点となるべき庁舎も2日間停電し、役場機能が失われ、町民の皆さまには大変ご不便をおかけしました。

また10月12日に接近した台風19号は、15号よりもさらに勢力が強いということから洪水被害を想定し、前日に災害対策本部を設置し、避難所を1か所開設しました。当日の10時には避難勧告を発令するとともに、4か所の旧小学校を避難所として開設しました。夜には225名の方々が避難し、不安な夜を過ごされました。台風の進路が予想より逸れたことから、本町への被害は15号の時よりも小さく済み、避難された方々も翌日には全員帰宅されました。



今回の災害対応には色々ご意見もあると思いますが、職員には何日も泊まり込むなどして、指示どおり対処してくれたものと思っております。感謝しているところです。

## 長南町の未来への挑戦

先般、水沼地先の西部工業団地計画跡地の活用について住民説明会を行いました。ここは県から無償譲渡を受けた約54haの土地と、未買収の土地8haが混在するところで、一連の土地として活用することが難しく、また標高差が大きいため造成には多額の費用が必要となります。

私は常々、この開発は民間にお願いするしかないと思っていました。そこで土地利用について各企業に照会をしたのですが、ほとんどの企業は興味を示しません。そんなとき、(株)コロニーから「オーガニック農法による循環型農業」を行いたいという提案があったわけです。長南町の豊かな自然を最大限に生かし、里山として残しつつも、ガラスグリーンハウス、レストラン、宿泊棟などの施設を整備し、新しく会社を立ち上げ、本社機能を本町に置くといったものです。まだ構想段階ですが、これが具現化すれば

雇用の場が確保され、定住・交流人口の増加につながり、町の財政にとっても税の増収、土地の使用料（土地は適正な対価で貸与予定）などの歳入増が見込まれることとなります。町の将来にとって千載一遇のチャンスがやって来ることになるわけですので、今後の土地利用計画について注視すると共に、町民の皆さまのご意見を踏まえながら積極的に関与し、課題等の解決に努めていきたいと考えています。

まだ全体像が見えてこない中で、すでに「反対」を表明し、反対の呼びかけをしている人がいるようです。

新しいことに反対はつきものですが、それは建設的な議論があつてこそ生きてくるものと思っております。町の将来に責任を持つ立場にある私としては、失敗は許されませんが、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

ある町民の方からコメントをいただきました。「町政に反対するばかりで対案が出てこない。町長は積極的な提案を進めてほしい（住民投票も視野に入れるくらい）」というものです。町政全般についてのご意見だと思いますが、大変心強く思っております。